

柴田町でトマトやブロッコリーなどの野菜苗を年間約10万ポット育てている畑山朋宏さんは、野菜苗の栽培が少なくなる冬場に収穫できる作物として、仙南地域では珍しいお正月飾り用のクロマツの栽培を2023年から行っている。

栽培のきっかけとなったのは、町内の若手農業者で組織する柴田町農村青少年クラブの視察研修とのこと。視察先となった農家を通して種を購入し、栽培を始めた。畑山さんは「薬剤の散布量をほ場ごとに調整するなど、試行錯誤しながら栽培している。まだまだ課題は多い」と話す。

商品として出荷できる規格になるまで、3年以上時間を要した。2025年に最初の収穫を迎え、町内の直売所で正月飾り用として初めて試験的に販売を行った。「今後は町内外を問わず、多様なルートを模索しながら販路拡大を目指す」と意気込む。

【記事提供】 柴田町農業委員会

収穫したクロマツを持つ畑山さん



10aほどのクロマツのほ場

